教育目標　すくすく　ぐんぐん　にこにこ

園だより

11月

令和５年１０月３１日
第５４６号
北区立じゅうじょうなかはら幼稚園

園長　髙沢　ゆみか

頑張るって楽しい

１０月２１日に王子第三小学校の校庭をお借りして、運動会を行いました。当日はお天気にも恵まれ、たくさんのご家族や来賓の皆様に、子どもたち一人一人が伸び伸びとその子らしく力を発揮する姿を温かく見守っていただきました。準備や片付けにご協力いただいた保護者の皆様にも心より感謝申し上げます。

子どもたちと教師が一緒に運動会に向かう過程には、本当に多くのドラマがあり、毎日が感動の連続でした。ここで触れたい場面はたくさんありますが、さくら組がリレーに取り組む中で日に日に意欲を高め、互いの存在を刺激や励みにしながら育ち合ってきた姿を振り返ってみたいと思います。

さくら組は、学級を赤組・白組の２チームに分けてリレーをしました。リレーを始めた頃は、それぞれが自分の順番のときに一緒に走る相手と競うことだけに意識が向いており、バトンを受け取ったときにすでに差が開いていると、走ることを諦める姿もありました。担任は、そのような姿も受け止めながら、その都度子どもたちと話し合う時間を設け、今日走ってみてどうだったか、次はどんなところを頑張りたいか、などを一人一人が考えられるよう寄り添ってきました。また、リレーの前に子どもたちが走る順番を相談するときには、一人一人の意気込みやチームの作戦を毎回丁寧に聞き取っていました。すると回を重ねる毎に、子どもたちの考え方が「自分が走るときに相手に勝ちたい」から「チームのみんなで勝つにはどうすればよいか」と少しずつ変わっていき、チームで自然と声を掛け合ったり、仲間の頑張る姿に目を向け、認めたりするようになりました。そして「バトンをもらったときに負けていても諦めない」「前の人がもしも抜かされても、自分がまた抜かせるように頑張る」など、仲間のためにどうするかを意識した言葉が聞かれるようになっていきました。

さらに興味深かったのは、毎回、勝負の後に互いのチームの作戦を学級全員で振り返る時間でした。相手チームがどのような作戦を立てていたのか、互いにとても興味があります。勝負後にそれを知る度に「なるほど」「だから今日は相手が勝ったのか…」と感心したり納得したりして、次に自分たちのチームの作戦に取り入れる様子もありました。他者の考えを聞き、自分(たち)の考えと重ねたり比べたりして、さらに考えを広げ深めていく様子は、まさに幼児期の『対話的で深い学び』の姿です。

教師が丁寧に一人一人の声に耳を傾けながら子どもたち同士をつなぎ、対話を重ねて運動会に向かう中で、**「頑張るって結構大変だけれど、楽しいよね」**と言った子がいました。友達と一緒に目標に向けて全力を出して取り組む実感とそれに伴う充実感や満足感を味わっていたからこその言葉です。力を発揮する充実感を経験している子どもは、この先も新たなことや困難なことに出会ったとき、よしやってみよう！と自分から前に進もうとするでしょう。「頑張る楽しさ」は、物事に向き合う姿勢の土台となります。今後も「頑張るって楽しい！」と実感できる環境をしっかりとつくり、子どもたちの充実した園生活を支えてまいります。

今月の指導のねらい

＜ちゅうりっぷ組＞

- 自分の思いを、動きや言葉で表したり、友達に伝えたりする楽しさを感じる。
- みんなで一緒に活動することを楽しみ、その中で、自分の動きを伸び伸びと表す。

＜さくら組＞

- 友達と思いや考えを出し合いながら、力を合わせて取り組んだり、遊びや生活を進めたりする楽しさを味わう。
- ごっこ遊びやルールのある遊びなど、友達とイメージを共有しながら遊ぶことを楽しむ。